（資料）

REFRANERO ESPAÑOL (36)
スペインの諺辞典

Bernardo Villasanz*(ed.)
新　井　藍　子**

1336. Poco dinero, poca salud.
わずかな金に　すぐれない体調

― 金なしでは，物事の務めがきちんと果たされない，また，頬紅なしでは，女性の顔色はすぐれない。（コレアス）

― 類義の諺には“Poco dinero, poco meneo. 少しの金に，おざなりな管理”（わずかしか支払うことが出来なければ，相手にそれほど要求することも出来ない―バロス諺集），“poco bien, poco cuidado. 小さな農園に，ぞんざいな手入れ”（コレアス諺集）などがある。

― 人は，窮乏していれば健康の管理にまで目がいき届かないように，物事の管理，手入れをきちんとするためには，それ相応の資金が必要であるということ。“先立つ物は金”（何をするにも，まず必要なものは金であるということ）とは，上記のスペインの諺の真意をずばりとついた日本のことわざである。類義の諺には“人貧しければ智短し”がある。貧乏していると，見出しの諺が言うように，健康がすぐれないだけではなくて，知恵の働きも鈍くなるらしい。

* Edición y revisión. Facultad de Humanidades. Universidad de Fukuoka.
** Profesora de español en la Universidad de Fukuoka (Facultad de Humanidades).

1337. Poco (El) hablar es oro y el mucho hablar es lodo.
口数が少ないのは金(きん)　口数が多いのは滓(かす)

— スバルビィ諺辞典には異表現“El poco hablar es oro, y el mucho, lodo. 同訳”（黙っているほうが，時宜におかまいなしに話される言葉よりもましである—スバルビィ）が収載されている。

— 同義の諺には“Al buen callar llaman Sancho. かしこい沈黙をサンチョと呼ぶ”（筆者の諺辞典，諺 47 を参照）がある。

— 旧約聖書でも次のように口数が多い人をたしなめている箇所が多い；“El que mucho habla, mucho yerra; callar a tiempo es de sabios. 口数が多ければ罪は避けえない。賢い者は唇を制する”（箴言 10－19－20），“Cuidar las palabras es cuidarse uno mismo; el que habla mucho se arruina solo. 自分の口を警戒する者は命を守る。いたずらに唇を開く者は滅びる。”（箴言 13－3－4），“Las palabras en el momento oportuno son como manzanas de oro incrustadas en plata. 時宜にかなって語られる言葉は銀細工に付けられた金のりんご。”（箴言 25－11－12），“Al que habla sin ton ni son hay que temerle, pues en su boca hasta una profecía se hace odiosa. 口数の多い者は，町中で忌み嫌われ，口の軽い者は，その言葉によって憎まれる。”（シラ書 9－18），“El que domina su lengua, vivirá en paz, y el que odia la murmuración sufrirá poco. 口を慎む人は，平穏に暮らす。無駄口を嫌う人は，心の負担が軽くなる。”（シラ書 19－6－7）

— “Lodo”には，“泥，スラッジ，泥滓(でいし)”などの意味がある。

— 日本の諺にも次のように口数が少ないことを称えるのが多い；“沈黙は金”，“怜悧なる頭にはとじたる口あり”，“言わぬは言うに勝る”，“言わぬ言葉は言う百倍”，“物は言い残せ菜は食い残せ”など，いずれも，人前では思っていることを全部ぺらぺら言うべきではないとおしえている。

1338. Poco vino, vende vino; mucho vino, guarda vino.
少量のワインは売れ　多量のワインはしまっておけ

— もし少なければ，高く売れるし，たくさんあれば，少なくなるまで，しまっておくのが良い。（コレアス）ワインは，欠乏してから売るべきだし，十分にありすぎると，

安い値がつくので，貯蔵するのがいい。（バロス）

— 商いの基本をおしえている諺。こちらにも同じように商いの真髄を謳う諺が次のようにいくつかある；“商いは牛の涎（よだれ）”（利得を急いではいけない，気長に辛抱強く続けよの意），“商人（あきんど）は損していつか倉が建つ”，“損は儲けの始め”など。

1339. Poderoso caballero es don dinero.
勢力のある紳士は　金である

— 金があれば，ほとんどのものが手に入る。（バロス）場合によっては，法をも曲げてしまうほどの力がある金の威力を誇張する諺。（スバルビィ）

— 異表現には“El dinero es caballero. 金持てば殿様”（筆者の諺辞典，諺 420 を参照），“Don Dinero es gran caballero. 金は偉大な紳士である”など，また，同義の諺には“El dinero hace al malo bueno. 金は悪いこともよいと見なす”（同諺 420 を参照），“El dinero todo lo puede y vence. 金は何でも出来るし，何でも打ち負かす”（同諺 420 を参照）などがある。

— 旧約聖書でも金の威力についてこう言う；“Entre los pobres, el rico es rey; entre los deudores, el prestamista. 金持ちが貧乏人を支配する。借りる者は貸す者の奴隷となる。”（箴言 22－7－8），“Hay pobres que por sensatos son respetados, pero a otros se les respeta sólo por ser ricos. 貧しい人は，その知識によって尊ばれ，金持ちは，その富によって尊ばれる。”（シラ書 10－30－31）

1340. Polvo (El) de la oveja, alcohol es para el lobo.
羊の群れのほこりは　狼にはアルコール

— 特に恋している者について言う。ある人とかある物を欲しいと思うと，それに付随しているどんなものにもうっとりし，好ましく思えるというたとえ。また，あるものを欲しくて欲しくてたまらないような場合には，人というものは，それを実現させるためには手段を選ばないし，もしかしたらそれによって痛手を蒙るかもしれないなどということには配慮を払わないという解釈もできる。（バロス）

— コバルビアスの宝典には異表現で“El polvo de las ovejas no mata al lobo. 羊の群れのほこりは，狼を殺さない”が，収載されている，コバルビアスによると，“喜びを追いかける者は，痛い目に会うことには気を留めない”

— 類義の諺には“El polvo del ganado, al lobo saca de cuidado. 羊の群れが立てるほこりは，狼の注意をそらす”，“Por amor del buey, el lobo el arado lame. 牛が好きな狼は，犂を舐める”（欲するものを手に入れるためには，まず手始めに，事を有利に運んでくれそうな人にお世辞をつかう—バロス），“Por la peana se adora (se besa) al santo. 将を射んとすればまず馬を射よ”などがある。

— バロスによると，見出しの諺には二つの解釈がある；一つ目は，“屋烏の愛”，“愛屋烏に及ぶ”と同義で，烏は憎らしい烏だが，愛する人の家の屋根にとまった烏は，かわいく思えるの意味で，“坊主憎けりゃ袈裟まで憎い”，“親が憎けりゃ子も憎い”という諺とは丁度裏腹に当たる。類義の諺には“痘痕も靨”，“縁の目には霧が降る”（縁があって結ばれる者の目には，相手の欠点が見えないばかりか，全てが美化されて見えるものである—故事ことわざ活用辞典）などがある。二つ目は，ある事にばかり気をとられていると，他の事がおろそかになるという意。

1341. Poner puertas al campo; querer poner puertas al campo.
野っ原に戸は立てられぬ

— 抑えきれない，防ぐことができない事に対して甲斐なく試みることの意。（マリア・モリネール，スペイン語辞書）防ぎきれない，守りきれない状況を指す。（コレアス諺集）

— 寒さをしのぐために野原に戸が立てられないように，人々のうわさ，陰口，中傷から防ぐために人の口に戸を立てることは出来ないということ。旧約聖書では，己の口に戸を立てよと次のように言っている；“.....pon también puerta y cerrojo a tu boca y pesa las palabras que digas. Ten cuidado de no pecar con la lengua, ... お前の口には戸を立てて，かんぬきを掛けよ。お前の言葉は秤に掛けて，慎重に用いよ。口を滑らせないように注意せよ。”（シラ書 28－25－26）

— 例題 1：ドン・キホーテ第一部 25 章，王妃に情人がいたなどという噂はとんでもないと言うドン・キホーテに，サンチョが“Mas ¿quién puede poner puertas al campo? けんど，だれが野っぱらに戸をたてられるね”（正編二，永田寛定訳）サンチョは，ここで，日本の諺“人の口に戸はたてられぬ”と全く同じ意味で諺を使っている。人の噂はとめることもふせぐことも出来ない。広い野っ原に戸を立てるのが無理なら人の口にも戸を立てるのは無理である。

— 例題 2：ドン・キホーテ第二部 55 章，学生からののしられて嘆いているサンチョに，ひとの言うことなど気にするな，とドン・キホーテ，“....; y es querer atar las lenguas de los maldicientes lo mesmo que querer poner puertas al campo. 悪口言いの口にふたをしようと言うのは，野っ原に戸をたてようとするのと同じことよ。”（続編三，高橋正武訳）

— すでに見てきた“人の口に戸は立てられぬ”は，見出しのスペインの諺と表現も類似している。同義の日本の諺には“世間の口に戸は立てられぬ”，“口から出れば世間”，“世の取り沙汰（ざた）は人にまかせよ”などがある。

1342. Pon lo tuyo en concejo, y unos dirán que es blanco, y otros que es negro.
皆に君のものを見せてごらん
そうしたら　白いと言う人もいれば　黒いと言う人もいるから

— 人の考えは，種々雑多であるから，全ての人を満足させるのは無理である。（スバルビィ）われわれの行動を意見の異なった人々にゆだねるのはよくない，終いには，どんな行動もとれなくなるから。（バロス）

— 次のような異表現がそれぞれコレアス諺集，スバルビィ諺辞典に収載されている；“Pon tu culo en concejo; uno te dirá que es blanco, otro que es bermejo. 皆に君の尻を見せてごらん，白と言う人もいれば，赤いと言う人もいるから”（コレアス諺集），“Pon tu haber en concejo; uno dirá que es blanco, y otro que es bermejo, o prieto. 皆に君のものを見せてごらん，白いと言う人もいれば，赤い，或は黒いと言う人もいるから”（同諺集），“Pon tu culo en concejo. Y unos dirán que es blanco y otros que es negro. 皆に君の尻を見せてごらん，白いと言う人もいれば，黒いと言う人もいるから”（二人の人間が，全く同じ意見を言い合うのはとても難しい—スバルビィ諺辞典）

— 例題：ドン・キホーテ第二部 36 章，サンチョが妻テレサに宛てた手紙の中で見出しの諺を使っている。ドゥルシネーア姫の幻術を解くためにわしは，自分を笞打ちしなければならぬが，だれにもしゃべるな，“....., porque pon lo tuyo en concejo, y unos dirán que es blanco, y otros que es negro. なぜと申すに，見せずともよきものを見せたりすれば，白いといわれたり，黒いといわれたりするからにそろ。”（続

編二，永田寛定訳）注 133：＜見せずともよきものを＞—＜Pon lo tuyo en concejo, y unos dirán que es blanco, y otros que es negro. 汝のものを市会にかけろ，そうしたら，白いという人もあれば，黒いという人もある＞は，人の意見はさまざまである意味のことわざ。＜見せずともよきもの＞も＜汝のもの＞も，ひとに見せるべきでない体の部分のこと。—続編二，永田寛定，注 133。

1343. Por bien estar mucho se ha de andar.
健康であるためには　たくさん歩かねばならぬ

— 現代にも通じることわざで，健康を保つためには努力して体を動かさねばならないということ，そこから，バロスによると，“El que algo quiere, algo le cuesta. 何かを欲する者は，ずいぶん骨を折らなければならぬ”という，広い意味になる。

— 健康とか長生きに関しては，すでに次のような諺を見てきた；“Hazte viejo temprano y vivirás sano. 早く年寄りになりなさい，そうすれば健康に生きられるだろう”（筆者の諺辞典，諺 666 を参照），“Si quieres llegar a viejo, guarda el aceite en el pellejo. 長生きしたかったら，つやつや肌を保ちなさい”（同諺 666 を参照）

1344. Por buen día que haga, no dejes la capa en casa.
たとえ天気の日でも　家にコートを置いておくな

— いつでも用心深くあれと説いている。（バロス）

— 一見，こんなことにも用心しなければならないのかと思われることにも，用心に越したことはないと戒めている諺がこちらにもたくさんある。そういう時は，誇張表現でたとえを表わしている，例えば“石橋を叩いて渡る”，“浅い川も深く渡れ”，“石橋に鉄（かね）の杖”，“人を見たら泥棒と思え”，“火を見たら火事と思え”などがある，また，見出しの諺に類似しているたとえには，“濡れぬ先の傘”がある。

— 日本の諺に“よいうちから養生”というのがあるが，筆者が度々引用している旧約聖書でも同じことを言っている；“...y antes de caer enfermo, cuida tu salud. 病気になる前に，養生せよ。”（シラ書 18－19），“Antes de caer enfermo, humíllate; 病気になる前に，自らへりくだれ。”（同 18－21），また用心については，“El sabio siempre está prevenido; 知恵ある人は，すべてに用心深く，...”（同 18－27）など

と，全てに用心深くあれとおしえている。

1345. Por buscar más contento, tornóse tu tiempo viento.
もっと満足できるものを見つけようとしたら
風向きが変わってしまった

— 現状に満足できないのが人である。たとえ平凡でも，特に悪いことがなかったのに，もっと良いことを求めようと環境を変えたら，以前より状況が悪化してしまったことを言う。

— 類義の諺には“El que está bien no para hasta que se pone mal. 健康な者は，病気になるまで立ち止まらない”（筆者の諺辞典，諺 477 を参照），“El que tiene bien y su mal escoge, de lo que le venga no se enoje. 幸せなのに，わざわざ悪運を選ぶ者は，将来起こることに怒るな”（同諺 477 を参照）がある，また，みすみす今の状態より悪くなるということが前もって分かるような場合には，現状を変えようとしている人に忠告を与える次の諺がある，“Bien se está San Pedro en Roma. 聖ペトロは，ローマに居れば安心”（安全を考慮すれば，物事を変えるべきではない—バロス，本来在るべき所に，ちゃんと物がおさまっていれば，何事も起きないが，それを移動したり，変えたりするのは良くないし，危険である—マリア・モリネール，筆者の諺辞典，諺 139 を参照のこと）。

1346. Por dar limosna no se mengua la bolsa.
施しをすることにより　財布を軽くするな

— 他者に対して，自分の貧困を招くような気前のよい行いをするなと戒めている。（バロス）

— バロス諺集には，次ぎの異表現“Por dar limosna no se venda la bolsa. 施しをするために，財布を売るな”がある。何故なら，“La caridad bien entendida empieza por uno mismo. 真の慈善は，まず初めにおのれ自身にせよ”（筆者の諺辞典，諺 217 を参照），“La caridad bien ordenada nace, o empieza, por uno mismo. よく整えられた慈善は，まずおのれ自身にすることから生まれる”（同諺 217 を参照）

1347. Por decir un buen dicho se pierde un amigo.
金言の言い過ぎで　友を失う

— 雄弁であることを鼻にかけている者が，友達が腹を立てるようなことを言えば，その友達を失うことになるかもしれぬと教えている。（コレアス）自分で頭がいいと思っていると，われわれが尊重し，友情を抱いている者に対しても，気がつかないうちに傷つくようなことをいつか言う羽目になるかもしれぬ。（バロス）

— 次のような異表現がそれぞれコレアス，バロス諺集に見られる；“Por decir un buen dicho se puede perder un amigo. 金言を言い過ぎれば，友を失うかもしれない”（金言を言うことを好きな者が，友達にそれを言う機会を逃さずとばかりに言うことによって，その友が腹を立てることにいっこうに注意を払わないことを諌めている—コレアス），“Por un buen dicho se pierde un amigo. 金言の言い過ぎで，友を失う”（時々，人というものは良い機会だといわんばかりに，だじゃれを言い放つが，われわれの話を聞いている友が，それによって怒るかもしれないことなど考えようともしない—バロス）

— 日頃から，自分で頭の回転が早く，弁が立つと思っている者が，ついうっかり口をすべらせて大事な友まで失ってしまうことを言う。今まで度々，旧約聖書では話しかたについて忠告していることを引用してきたが，ここでも再び引用することにする；“Antes de hablar, infórmate, ... 口を開く前に，よく考えよ。”（シラ書 18－19），“Más vale un traspié con los pies que con la lengua. 口を滑らすよりは，道で滑る方がましだ。”（同 20－18－19），“Desde lejos se conoce al charlatán; pero el sensato se da cuenta de sus propias faltas. 雄弁家の名声は，遠くまで知れ渡るが，賢い人はその失言をすぐに見抜く。”（同 21－7－8）

— 見出しの諺の友達の立場にしてみれば“金言耳に逆らう”，“諌言耳に逆らう”，“忠言耳に逆らう”（孔子家語）であろう。相手が自分の欠点とか弱点を指摘し，それが真実を突いている場合は，尚更耳に痛く素直に聞き入れるどころか，相手に対して腹を立ててしまうことになる。

1348. Por demás es la cítola en el molino cuando el molinero es sordo.
粉ひき人がつんぼなら　合図の音も無駄

— すでに筆者の諺辞典では，異表現（諺 234 を参照）“La cítola, es por demás cuando el molinero es sordo. 粉ひき人がつんぼなら，合図の音も無駄”が収載されている。そこでは，スバルビィ（諺辞典）の解釈（前もっての準備，用心をいくらしても方法，手段が間違っていれば何にもならない）を採用したが，ここではバロスの解釈を採用しておく。バロスによると，聞こうとしない者にいくら忠告しても無駄であるというたとえ。

— コレアス諺集には，異表現で“Por demás es la cítola en el molino, cuando el molinero es sordo; o por demás es la taravilla, si el molinero es sordo. 同訳”

— 例題：セレスティーナ第 16 幕，何故自分の縁談をそんなに両親が急いでいるのか見当がつかないというメリベア，いくら縁談を急いでも無駄だという；“Pues mándoles yo trabajar en vano; por demás es la cítola en el molino. おまけに，そんなのは粉ひき小屋のじょうごのたとえじゃないが，聞く耳もたぬ者にいくら説得しても，甲斐ないことだわ。”（魔女セレスティナ，大島正訳）注：“Cítola とは，粉ひき器の車の上にひもでぶらさがっている細長い板で，粉ひき器が回っている間，その粉ひき器を打ち続けている。その音がしなくなれば，粉ひき器がとまったということである。それで粉ひき人に知らせる役目を果たすことになる。そこから見出しの諺がきている—コバルビアス”

— 上記の例題の諺は，バロスが説明した“聞く耳を持たぬ者に，いくら忠告しても無駄である”という意味で使われている。日本の同義の諺には“馬の耳に念仏”，“犬に念仏猫に経”，“牛に経文”，“蛙の面に水”などがある，こちらのたとえにはさまざまな動物がでてきて表現を面白くしている。同義でこんなにもいろいろな言い方があるということは，それだけ世間には聞く耳を持たぬ者が多いということだろうか。

1349. Por dinero baila el perro y por pan si se lo dan.
金のためなら犬でも踊る，もしパンを上げるなら
パンのためにも踊る

— 金の威力をたとえている。そして，それが役に立たぬ者にまで影響を及ぼすことを強調している。（スバルビィ）

— 今まで，すでに見出しの諺は，表現の異なった諺で度々引用してきたのでお馴染みであろう。次のように同義の諺が多数ある；“Menea la cola el can, no por ti, sino por el pan. 犬が尾を振るのは，パンにであって，君にではない”（筆者の諺辞典，諺 927 を参照），“Si quieres que te siga el can, dale pan. 犬についてきてもらいたかったら，パンを上げなさい”（同諺 927 を参照），“Por dinero canta el ciego y baila el perro. 金のためなら，めくらも歌い，犬も踊る”，“Por el dinero baila el perro y salta por el cerco. 金のためなら犬でも踊るし，柵をも越える”，“Por dineros, todo haremos. 金のためなら，何でもしよう”，“Para que anden los carros hay que untarlos. 荷車が動くためには，油を塗らなければならぬ”（筆者の諺辞典，諺 1267 を参照），“Piedra sin agua no aguza en la fragua. 研ぎ石は，水をかけないと，鋭利にならない”（同諺辞典，諺 1315 を参照）など。

— スペインのようにこちらでも，同義の諺がたくさんあるがいくつか見てみよう；“銭あれば木仏も面を返す”，“地獄の沙汰も金次第”，“金の切れ目が縁の切れ目”，“愛想づかしも金から起きる”，“富貴には他人も集まり貧賤には親戚も離る”，“金さえあれば飛ぶ鳥も落ちる”など，特に最後の諺は，スバルビィが解説したように，一見金が役に立たぬ者にまでその威力を発揮するすごさを謳っている。

1350. Por donde fueres haz como vieres.
郷（ごう）に入（い）りては郷（ごう）に従う

— われわれの周りにいる人たちの習慣，流儀に従うのがわれわれにとって都合が良いことをおしえている。（バロス）

— 同義の諺には“Pon tu cabeza entre mil, lo que fuere de los otros será. 千人の間に君の頭を入れよ，そうすればその者たちの一人になれるだろう”（より大勢の人の忠告に従うことを勧めている—バロス），“Sé cortés con quien lo es. 礼儀正しい人

には，礼儀正しい振る舞いをせよ”，“Cuando a Roma fueres, haz como vieres. ローマへ行ったら，見たとおりに行(おこな)え”など。

— 例題：ドン・キホーテ第二部 54 章，統治していた島から離れて，ドン・キホーテのもとに急いでいたサンチョは，道中，昔馴染みのモーロ人のリコーテとその連れに会う。サンチョは，誘われて酒袋から連中のしているとおりを真似て飲む，“...por cumplir con el refrán, que él muy bien sabía, de <cuando a Roma fueres, haz como vieres>,... よく知っていることわざ<ローマに往かば，見るところを行え>を実践しようと，...”（続編三，高橋正武訳）

— 風俗習慣，言語などはそれぞれの国，土地によって違うものであるから，そこに行ったり，住むときは，風習に逆らわないで従うのがよいというおしえの諺がこちらにもある。見出しの訳以外に次のようにいくつかある；“その国に入ればその俗に従う”，“所変われば品(しな)変わる”（土地土地によって，品物の名前や使い方が変わる），“国に入ってはまず禁を問え”，“所の法に矢は立たぬ”（その土地その土地の風習や取り決めなどには，道理に合わない面があっても従わないわけにはいかないということ—故事，ことわざ活用辞典），“人の踊る時は踊れ”，“所変われば水変わる”など，海外旅行が盛んな昨今に，とてもためになる一連のおしえである。

1351. Por el hilo se sacarás el ovillo y por lo pasado lo no venido.
糸をたぐって　糸玉を引き寄せ
過去をたぐって　未来を占う

— わずかな事柄から，これからどう大きく展開していくことが分かるように，今までに起きたことから，これから起こることを推測できる規範をわれわれは得ることができる。（バロス）物事の初めですべてが分かってしまう。（西和中辞典）物事の一部を見てその全体を推し量ることができる。（筆者）

— コレアス諺集には，標題の諺と共に次の異表現が見られる；“Por el hilo se saca el ovillo, Dominguillo. 糸をたぐって，糸玉を引き寄せる”，“Por el hilo se saca el ovillo, y no quiero yo decillo. 糸をたぐって，糸玉を引き寄せる，（この諺については）わざわざ言うまでもない”（糸をたぐって，台の下によくころがる糸玉を引き寄せること。その言わんとすることは誰もが知っているだろう，だから説明するには及ばないとコレアスはコメントしている）

バロス諺集にも，異表現“Por la hebra se saca el ovillo. 糸をたぐって，糸玉を引き寄せる”が収載されている。

— 類義の諺“Por la muestra se conoce el paño, o se saca el paño. 見本を見れば，品物が分かる”，“Por la uña se saca el león. 爪を見てライオンが分かる（一斑を見て全豹を卜す）”が，コレアス諺集に見られる。

— 例題 1：ドン・キホーテ第一部 4 章，ドゥルシネーア姫の美しさを認めよと迫るドン・キホーテに，商人のうちでひとりのふざけ屋が，麦粒ほどのものでもいいから姫の絵姿をお示し下さいと諺を引用する，“...; que por el hilo se sacará el ovillo, ... 糸をたぐって糸玉を引き寄せるとやら申せば，...”（正編一，永田寛定訳）注：108，“一斑によって全豹を知るに近い”（永田寛定）

— 例題 2：ドン・キホーテ第一部 23 章，ラ・シエラ・モレーラの山中で拾った革ぶくろの中には，ひかえ帳が入っていた。そこには詩が書かれており，ドン・キホーテは，サンチョに読んで聞かせるが，そのうたでは，なにひとつわからないが，とサンチョが諺を踏まえてこう言う，“...si ya no es que por ese hilo que está ahí se saque el ovillo de todo. 最も，うたにある糸尻から，糸玉ぜんてえがたぐられれば別だけんど。”（正編二，永田寛定訳）

— 例題 3：ドン・キホーテ第二部 12 章，森の夜の闇の中で聞いた物音で，騎士がこれから歌うらしいと見当をつけたドン・キホーテは，諺を念頭においてサンチョに次のように言う，“..., que por el hilo sacaremos el ovillo de sus pensamientos, si es que canta; que de la abundancia del corazón habla la lengua. まあ，聞いておろう。もし，歌いだすとすれば，その糸をたぐって，あの胸にわだかまる思いを引きだせようからな。思いがあまればこそ，舌は語るものよ”（続編一，永田寛定訳）

— 論語には，標題のことわざの後半と同意義の“往を告げて来を知る”（過去にあったことを知らせれば，それによってこれから起こるであろうことが察知できる—故事ことわざ活用辞典）がある。また，類義の諺には“一斑を見て全豹を卜す”（一つのまだらを見て豹であることを推知するように，物事の一部を見てその全体を推し量ることのたとえ），“蛇首を見て長短を知る”，“一を以て万を察す”，“一事が万事”（一つのことから他のすべてが推測できる），“一を聞いて十を知る”などがある。

1352. Por fas o por nefas.
なんとしてでも

— コレアス諺集によると，“a tuerto y a derecho—是非はともかく，軽率に，無鉄砲に”（a tuerto o a derecho, a tuertas o a derechas とも言う—筆者）と同意義。スペイン王立アカデミー辞書（2001 年）によると，“justa o injustamente—正しかろうが，間違っていようが，Por una cosa o por otra—いつでも，常に，なんらかの理由で”と同意義の慣用的な言い回し。また，スバルビィは，“hacer una cosa justa o injustamente—正しかろうが，間違っていようがある事をする，a todo trance—何がなんでも，どんな犠牲を払ってでも”という意味の慣用句であると説明している。

— “格言の由来（El porqué de los dichos，José María Iribarren, 1955 年）”によると，標題の熟語は，古代ローマ人の Pompilio が年間の日々を“fastos—吉日”と“nefastos—凶日”に分けたことに由来しているらしい。日と曜日の下に，大安とか友引，仏滅などと書いてある我が国の暦を思いだせば理解できるであろう。現在の日本では，いまだに結婚式の日取りを決める時は，たいていの人は大安日を選んでいる。わざわざ仏滅の日を選ぶ人はいない。しかし，何らかの理由で結婚を急いでいるカップルなら，標題の言い回しを使って“何がなんでも結婚したい，吉日であろうと，凶日であろうと”ということになるだろう。

1353. Porfía (La) mata la caza.
粘り強さが　獲物を捕らえる

— じっと獲物が罠にかかるまで待つという行為には，並大抵ではない辛抱が必要であるというたとえ。

— ユーモアのあるコレアス（諺集）は，口説かれたいと思っている御夫人たちなら，このことわざの真意がよく分かるであろうと言っている。同諺集には次の異表現が収載されている；“Porfía mata venado, que no luengo dardo; que no cazador cansado. 粘り強さが鹿を射止めるのであって，長い投げ槍でもないし，飽き飽きした猟師でもない”，“Porfía mata venado, que no ballestero cansado. 粘り強さが鹿を射止めるのであって，うんざりした射手ではない”など。

— 同義の諺には，“Continua gotera, horada la piedra. 絶えまぬしずくは，石をもう

がつ”（筆者の諺辞典，297 を参照），“Gota a gota, la mar se agota. 一滴一滴，海は尽きる”（同諺辞典，諺 619 を参照），“La perseverancia toda cosa alcanza. 根気があれば，全てを達成できる”（同諺辞典，諺 1326 を参照），“Pobre porfiando saca mendrugo. 粘って粘ってパンくずをもらう”（同諺辞典，諺 1326 を参照）などがある。

— すでに筆者の諺辞典でも見て来たが“根気，辛抱，努力”等を謳う諺は，こちらにもごまんとある。何事も根気よく続ければ望みは達せられ，おおきな成果が得られることをたとえて“雨垂れ石を穿つ”とか“石の上にも三年”，“念力岩をも通す”，“待てば海路の日和あり”など現在でもよく知られていることわざである。これらの諺で強調されているのが，歳月をかけての努力と根気である。短期間では大事業は成し遂げられないということであろう。

1354. Por hacienda ajena nadie pierde la cena.
他人の農場のためには　誰も夕食を抜かない

— 直接関係がない事柄には，誰も犠牲を払わないというたとえ。（バロス）

— 他者の利益のために，手を貸すのも何らかの報酬が期待できるからであろう。しかし，昨今では無償のボランティア活動が盛んであるが，自己満足であれ，何であれしないより，したほうがいいにきまっている。

1355. Por la boca muere el pez.
魚は口がもとで死ぬ（口は禍いの門）

— 他人にとっては興味があるが，自分には損になるような事柄を，それとは気がつかないでうっかりと喋ってしまうことをたとえている。（バロス）

— スバルビィ諺辞典では，標題のことわざに，次のような後半が，時にはつけ加えられるという；“...cuenta con lo que se habla. だから，話すときは気をつけなさい”（軽卒に話すことによって，自分自身に不利になってしまうような事態を避けるためにも，話す前には熟慮しなさいと忠告している諺である。次の小歌でもそう言っていますよ；レオン（スペイン北西部にある県—筆者）の半島では網と釣り竿で魚を獲る；魚は口がもとで死んでしまう。だから，話すときは気をつけなさい—スバルビィ）

— コレアス諺集には，次の異表現が見られる；“Por la boca muere el pece, y la liebre tómanla a diente. 魚は口がもとで死ぬ，兎は歯がもとで捕らえられる”

— 口から出た不用意な言葉で，人は不幸を招いてしまう。だから口は慎まなければならないという意のことわざはこちらにも数多い；“口は禍いの元”，“禍いは口から”，“三寸の舌に五尺の身を亡す”，“舌の剣は命を絶つ”など，うっかり不用意に喋ったことで，身を亡ぼしたり，命さえも失う羽目になると警告している。

1356. Por la caridad entra la peste.
同情から　疫病神が入ってくる

— 同情の気持ちから，あるものを譲ってあげたのに，それを受け取った者が後でやりたい放題のことをして，もう我慢ならない状態にまで追いこまれるということがしばしばある。（バロス）

— 筆者の諺辞典には，すでにいくつかの類義の諺が次のように収載されている；“Haceos miel y comeos han las moscas. 蜜のように甘いと，ハエどもが食べてしまう”（諺 640 を参照），“Haceos oveja y comeros han lobos. 羊のようにおとなしいと，狼どもが平らげる”（同諺を参照），“Huéspedes vinieron y señores se hicieron. 泊まり客として来たのに，主人になってしまった（庇を貸して母屋を取られる）”（諺 697 を参照），“De fuera vendrá quien de casa nos echará. 外から来た者が，われわれを家から追い出す”（同諺を参照），“Mete el mendigo en tu pajero y hacérsete ha heredero. 乞食をわら置き場に入れたら，相続人に指定させられた”（諺 931 を参照）など，いずれも情けをかけて困っている人を助けてあげたのに，感謝されるどころかひどい仕打ちを受けて被害を蒙ることを言っている。

— こちらの“鉈を貸して山を伐られる”，“飼い犬に手を噛まれる”などの諺が同じようなことを言っている。

1357. Por la mañana a la pescadería y por la tarde a la carnicería.
朝　魚屋へ行け，午後は　肉屋へ行け

— 昼食には，魚を食べるように，夕食には，肉を食べるようにすすめている。（バロス）

— コレアス（諺集）によると，夜間に獲った新鮮な魚類（沿岸地域）は，翌朝売りにだされるので，買うならこの時間帯が最も良い。また，肉については，午前中は忙しいので，午後になって肉鍋を火にかけるところからきている。

1358. Por mal vecino no deshagas tu nido.
厭な隣人のために　あなたの巣を　めちゃめちゃにするな

— 特に，女たちに向かって発せられた忠告であるが，また，一般的に（隣人のために）そんなに犠牲を払うなとおしえている。（バロス）
— コレアス諺集には，標題の諺と共に，次の類義のことわざが見られる；“Por los ruines se pierden los buenos. 卑劣な者によって，善良な者が駄目になる”
— 隣のことは何かと気になるのは，どこも同じらしい。ただ気になるだけではなく“隣そねみ”という言葉もあるように，隣人をねたむ心の表れとして“隣の貧乏は鴨の味”という諺があるし，また隣をうらやましく思えば“隣の花は赤い”とか“隣の芝生は青く見える”，“隣の牡丹餅は大きく見える”などとなる。

1359. Por más gorda que sea la gallina, ha menester a su vecina.
うちのメンドリが　どんなに太っていようとも　隣人は必要だ

— どんなに（経済的に）満ち足りていようとも，何でも自力に頼るわけにはいかない。誰も他者の助けをはねつけるべきではない。（バロス）
— われわれの人生には，いつどんな災難がふりかかってきて，他人の手助けが必要になるか分からないから，なるたけ謙虚に孤立して生きるべきではないとおしえている。先の諺と合わせて考えても，隣人，親戚，友人など身近な人との付き合いの難しさがよく分かる諺である。

1360. Por más que el bien se dilate, como se alcance no es tarde.
幸運は　どんなに延期されようとも
来るなら　遅いということはない

— すでに見て来た“Nunca es tarde si la dicha es buena. 喜びごとに，遅すぎるということはない”（筆者の諺辞典，諺 1186 を参照）と同義の諺で，幸せはどんなに遅くこようとも，いつでも歓迎されるものであるの意。
— 異表現として“Aunque el bien más se dilate, como se alcance no es tarde. 幸運はどんなに延期されようとも，来るなら遅いということはない”（同諺辞典，諺 108 を参照）がある，また，類義の諺には“Más vale tarde que nunca. 何もないより，

遅いがまし（遅れてするほうが，しないよりまし）”（同諺辞典，諺 902 を参照），“Más vale año tardío que vacío. 晩熟の年は，凶年の年に勝る”などがある。

— だから，幸せになることをあきらめることなく努力しながら待つことが大切であろう。日本には，“果報は寝て待て”とか“運は寝て待て”など，少々楽天主義とも思われる諺がある。

1361. Por miedo de pajarillos, no dejes de sembrar mijo.
小鳥を怖れて　キビの種をまくのを止めるな

— それほど重要でない支障なら，事業の企画を取り止めるべきではない。（バロス）

— スバルビィ諺辞典には次の異表現が収載されている；“Por miedo de gorriones no se deja de sembrar cañamones. スズメを怖れて，麻の種をまくのを止めるな”（本当は予想のつかない被害を蒙ることを怖れているが故に，なんらかの障害を口実にして，有利な事業を放棄するような真似はするな—スバルビィ）

— どんな企てにも支障はつきものだから，いちいちそれを怖れていては，何にも成し遂げられない。特にそれらの障害を口実に使って前に進むのを止めるのは卑怯であろう。“念力岩をも通す”とか“石に立つ矢”のような強い意志をもって行えば，些少な障害などなにほどでもないし，不可能と思われることでもできるであろう。

1362. Por mí no se mate vaca, que carnero comeré.
わたしのために 牛を殺すな，羊を食べるから

— 口実を使ってより良いほうをねだることのたとえ。（バロス）

— “宝典”（コバルビアス）に収載されている次の諺“Vaca y carnero, olla de cavallero. 牛と羊の肉は，騎士のナベ料理”によると，ナベ料理には，どちらの肉も上等らしいが，スペイン人にとっては，特に柔らかい子羊（cordero）の肉は，クリスマス　イブ（Noche Buena）に食べるごちそうである。確かに，スペイン産の硬い牛肉よりは，羊肉のほうがおいしいし，上等だと思われている。

1363. Por mucho madrugar no amanece más temprano.
いくら早く起きても　夜は早く明けぬ

— 新しい事業などを立ち上げる場合，あまりにも性急に物事をすすめると，よい成果を

得られない。（バロス）

— 異表現には，筆者の諺辞典，諺 1160 “No por mucho madrugar amanece más temprano. いくら早く起きても，早く夜は明けぬ”（詳しい説明が記載されているので参照して下さい），及びコレアス諺集に次の諺 “Por mucho madrugar no amanece más aína. 同訳”（物事をあまりにも急いですると，ゆっくりしたときには起こらないようなミスをする，この諺はそういう落ち着きのないせかせかした者を戒めている—コレアス）がある。

1364. Por mucho que corra la liebre, más corre el galgo, pues la prende.
どんなに兎が走っても，猟犬はもっと走る
なぜなら　捕まえてしまうから

— どんなに手腕を誇示しようとも，常にその者を追い越す者がでてくるものである。（バロス）

— また，標題の諺には，いつでも，しまいには強い者が勝ち，勢力のある者が，弱い者を屈服させるという意味があるが，同じ “el galgo—猟犬，la liebre—兎” の比喩を使った同義の諺が次のようにいくつかある；“A la corta o a la larga, el galgo a la liebre alcanza. 遅かれ早かれ，猟犬は兎に追いつく”（筆者の諺辞典，諺 27），“A la larga, el galgo a la liebre mata. 結局は猟犬は兎を殺す”（同諺辞典，諺 27）など。他の生き物を比喩に使ったのには，“O tarde o temprano, los lobos comen al asno. 遅かれ早かれ，狼はロバを食べる”（同諺辞典，諺 1219），“Los peces grandes se comen a los chicos. 大きな魚が，小さな魚を呑みこむ”（同諺辞典，諺 1278）などがある。

— 類義の日本の諺には，“泣く子と地頭には勝たれぬ”，“主人と病気には勝てぬ”，“殿の犬には食われ損” などがある。ここには，諺特有の比喩が使われていて面白い。